

# 「孀恋郷土資料館」

孀恋郷土資料館が今年開設 30 周年を迎えます。同資料館は、「浅間山の噴火」というテーマのもと、今から 230 年前の天明 3 年の大噴火と、それによって引き起こされた我が国史上最大級の噴火災害の記録などが、埋没村落からの発掘物とともに展示されていることはご承知の通りかと思えます。

この資料館にボランティアガイドの制度が発足したのは 4 年前のこと。以来、来館者に、展示物をただ見てもらうというだけではなく、ガイドが直接案内をし、解説をしていくという、より積極的な取り組みをする

それまでは、来館者も、「以前読まず、昔浅間山が大噴火したよんでした」という人がほとんどで聞き、「この村は、大変な歴史をました」とか、「自分が持っている砕流ではなく、じつは土石流であました」というような人たちが次あの 3・11 東日本大震災と巨大津やボランティアガイドの方々があいでいることにとっても感動し「災」ということにつながるのであ観音堂奉仕会をも含めて、資料館きな期待感を寄せる人もいます。

こうした中、昨年 4 月には、資いた「浅間山の大噴火」という、の教育委員会主催の「文化財作文紙が来たり、11 月にも、天明の噴徒が書いた作文が優秀賞に輝いた作文には、天明の大噴火によって力し、有力者は私財をなげうって力を注いだということに深く感銘、「群馬人の底力を知った!」「群馬を誇りに思う!」と記しています。

このほか、9 月には、県立博物館から新人の解説員さんが研修で来館しました。あの 3・11 東日本大震災と天明の噴火災害を重ね合わせて、後日、こんな所感を寄せてくれました。「だれしも悲惨な体験というものは思い出たくはありません。でも、それが例えわずかでも“防災・減災”のために役立つとしたら、あえて語り継いでいかなければなりません。歴史や文化を余すところなく伝えていくことの大切さを学ぶことができました」と。

資料館は村の「情報発信基地」です。今、ボランティアガイドは、自分の口で自分が住む地域の文化や歴史を語り、その魅力を発信していこうと、新たな決意に燃えています。

孀恋郷土資料館では、もし、こうしたボランティアガイドの活動にともに参加したいという人がいましたら、ぜひ同資料館まで連絡をいただきたいと望んでいます。

## ボランティアガイド情報発信の使命担い大活躍

## 今年で開設三十周年

ようになりました。

来たことはあるが、説明板などほとんどうだという程度のことしかわかりませした。ところが、初めてガイドの解説を背負ってきたのだなと思うようになりた疑問、例えば鎌原村を襲ったのは、火ったなど、直接質問ができて理解が進み第に増えていきました。そして、日本が波を経験して、最近では、「鎌原の人々の悲惨な火山災害の歴史を今も語り継た」と称賛するとともに、「それが“防れば、皆さんの使命は非常に大きい」と、ボランティアガイドの今後の活動に大

料館を見学し、ガイドの説明を受けて書小学校 4 年生の男子生徒の作文が地元コンクール」で入選したという喜びの手火災害に関連して、やはり小学校 6 年生の男子生という記事が地元紙で紹介されていました。この全滅した鎌原村の復興について、近村の人々が協



